

## はくさんまんが 「自転車にも青切符! 4月スタート!」の巻

2026年4月から自転車にも交通反則通告制度(いわゆる青切符)が適用されます。対象は16歳からですが、小中学生も今から知っておくことが大切です。信号無視やスマホを見ながらの運転、傘さし運転、夜の無灯火など、危険な運転は、指導警告や反則金納入の対象になります。ルールを守って安全に自転車を使いましょう。

\*\*\*東京都では自転車保険への加入が義務付けられています。もしもの事故にそなえて、必ず加入しましょう\*\*\*

警視庁「自転車交通安全」

(自転車のルールや事故状況をわかりやすく学べます)



東京都民安全総合対策本部

自転車安全学習アプリ「輪トレ」

(ゲーム感覚で自転車のルールを学べます)



## 特集: 地域研修会

## いろいろな子どもを地域で見守る



### 青少対のページ

- ▶中山小学校副校長コラム
- ▶八王子の昔話を聞きました
- ▶令和7年度青少対年間活動報告

### 地域のページ

- ▶片倉台小学校 創立50周年
- ▶片倉台地区の今昔

### まんがのページ

- ▶「自転車にも青切符! 4月スタート!」の巻

## 時間を大切に思う

青少年対策中山地区委員会  
会長 森直美

今年も間もなく、桜の季節を迎える。この時期に生まれたからだろうか、私は桜が大好き。生まれ育った福岡にいたころは、毎年、母と、自宅近くの舞鶴公園(福岡城跡)に花見に出かけたものだった。それなのに、どうしてだか、行けなかった年があった。

「今年も行けんかったね。」  
「来年は必ず行こうね。」  
その時、母と交わしたこの約束は、結局、果たせないまま、30年近くが過ぎようとしている。

人間に平等に与えられた1日24時間。どう過ごすかは、自分次第。「またね」とか、「今度ね」とか、未定の約束はしないようにしよう。そして、今を大切に生き、家族や友達と、楽しい時間を共有し、笑顔あふれる1年にしたいと年頭に願った。



舞鶴公園

はくさんバックナンバー

八王子 中山中 HP



→青少対・地域→広報誌「はくさん」

# いろいろな子どもを 地域で見守る

～学校・保護者・地域の連携の中で、  
人や社会とのかかわりを増やすために～

2026年1月24日(土) 高嶺小学校にて  
会場&オンライン開催しました。

(参加者)会場:31名/オンライン:6名

現在、不登校が増え続けているといわれています。学校に行くことが当たり前となっていた社会の価値観の転換期なのかもしれません。一人ひとりが自分の輝きを感じられる社会でありたい。人は人との関わりの中で育っていくものです。「自分」を大切に心豊かに生きていける社会をつくるために、地域のみんなでどんなことができるのか…たくさん子どもたちや家族、先生と関わってこられた宮崎先生のお話を伺いました。

グループでの話し合いや少数派になる疑似体験などを行いながら、とてもわかりやすく、社会課題が身近に感じられる研修会になりました。

講師：宮崎 芳子先生

(マイマイ個別支援教室代表)



## 講師プロフィール

小学校の統括校長を務め、特別支援教育に尽力。退職後、エール(日野市発達・教育支援センター)で勤務。福祉と連携しながら数多くの教育相談・就学相談を行う。現在は市内で「マイマイ個別支援教室」の代表として、小中高校生のSST指導・得意を伸ばす学習指導・居場所の提供をしている。また発達障害、不登校、学習困難等で困っている子どもと保護者、教員等の相談も行っている。全国各地で講演等を実施。

\*マイマイ\*個別支援教室 HP



★「マイマイ」は、かたつむりのこと。「一人一人ちがうよ。ゆっくりでいいんだよ。自分らしさを磨いていこう」という意味が込められています。

## 不登校の現状

小中学校の不登校は、最多35万人

- ▶長期化、低年齢化している。小学1年生から不登校になるケースも。
- ▶背景は多様(令和6年3月 文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究より」)
  - ・学校生活にやる気が出ない
  - ・不安、抑うつ
  - ・生活リズムの不調
  - ・学業不振や頻繁な宿題未提出
  - ・いじめ被害を除く友人関係の問題
  - ・親子のかかわり方 など、さまざまな背景がある。

いまや、  
不登校は特別なことではなく  
誰にでも起こりうる!

## なぜ不登校に?

要因は複雑化している

- ・身体症状 ・昼夜逆転 ・ゲーム ・SNS ・家庭環境 ・発達障害の二次障害 ・過敏 ・いじめ
- ・ストレス ・コロナ禍の影響 \*要因、状態、年齢によっても支援のニーズはさまざま。

学校は「平均的な発達」  
を基準にしているため、  
当てはまらない少数派  
にとっては苦しい場所  
になることも

学校に戻すことを目的  
としない考え方が広が  
り、不登校も一つの選択  
肢になっている。

## 社会全体で支える課題

どの子も人や社会とつな  
がり、「自分は認められて  
いる」と感じられること  
が不可欠!

## 少数派タイプの子どもたち

多数派中心の社会では、特性のある人は生きづらさを抱えやすく、二次障害\*1につながることもある。うまくいかなくても、努力が足りないわけではない。

- \*1 二次障害…発達障害\*2の特性が原因で生じる「生きづらさ」や「困難」が積み重なって生じる精神的な不調や問題行動のこと。環境の不一致や失敗体験が背景にあることが多い。(例:うつ、不登校、不安、苛立ち)
- \*2 発達障害…ASD(コミュニケーションが苦手、こだわりが強いなど)、ADHD(不注意、多動性、衝動性など)、LSD(読み書きが苦手、計算が苦手など)。

## 基本は「多様性の尊重」

教育、社会の基本は「多様性の尊重」

- ▶一人ひとりを尊重し、大切に育む。子どもも大人も互いに敬意を忘れない。
- ▶特性は弱みではなく、強みにもなる。世界には理解ある環境の中で、その才能を活かして活躍する人が多くいる。

その特性が ~人は誰でも、もって生まれた「特性」がある~

- ▶社会的に有利ならば⇒「**才能**」に
- ▶社会的に不利も有利もなければ⇒「**個性**」に
- ▶社会的に不利ならば⇒「**障害**」に

周りの環境が「人」の在りよう  
をつくってしまう。  
周りの理解者の存在がとても  
大切!

## 状況を整えて困ることを減らす

本人や周囲が特性を理解し、その人に合った工夫を見つけることで  
困りごとは軽減できる。「今日の予定などに見通しをもたせること」は、  
誰にとっても有効!

(支援例)

- ▶ASD…使命感や焦りは禁物。「今はこういうもの」と受け止める練習を。  
うまくいく時を手がかりにし、こだわりは強みに活かす。
- ▶ADHD…刺激に敏感な特性を強みに。味方として一緒に作戦を立てる。  
褒めて認める。服薬が有効な場合も多い。強い指導や頭ごなしの叱責は逆効果。
- ▶LD…学習の仕方が多数派と違う。自分に合う学び方を見つける。

文章のルビふり、  
試験時間延長、  
英文読み上げ、  
PCやタブレットでの回答、  
補聴器やルーベ使用、  
別室受験など、  
受験でも条件を満たせば  
合理的配慮してくれる  
例もある。

## 社会で生きるために 大切なもの

- 意欲
- 自己肯定感
- 援助要請(SOSを出せる)スキル



## 不登校の子どもを 見守る視点

- 行けない理由を尋ねないこと
- ごく普通に接すること
- 「学校へ行かない君はダメな子」  
みたいな言い方をしない  
(参考文献:「不登校から人生を拓く」  
相談員・池添素さんのアドバイスより)

## 子どもを応援する

子どもが歩き出していくための3つのツボ

1. 人とのかかわり
2. 自分で決めること
3. 夢がある 好きなことがある

安心安全な環境を。  
前向きに認めて  
あげる。

成功体験を積み上げる(成功や頑張りを見逃さないで)

その子に合った道を探そう

- ~子どもの笑顔をたくさん見られる場所を~
- ・学校や行政の相談室や不登校の子どものための特別教室
- ・フリースクール、農作業、地域活動、お稽古など
- ・高校進学の見学は増えている



## 「地域だからできること」

話し合ってみました

- 日頃から、身近な関わりを深め、安心して話せる仲間づくりを。
- 親同士がつながる。
- 傾聴の学びを。大人が、子どもの話を否定せずに傾聴の姿勢で聴くことで、自己肯定感もUPしていく。
- 学校の中に子ども食堂もいいね。
- 学校に行っていない子ども、自然にあいさつができる地域環境に。
- 人と比べるのではなく、一人ひとり違っていい、その人を尊重する価値観を広めていきたい。
- 「大人の背中を見て子どもは育つ」…だからこそ、大人の私たちが、互いに思いやりをもち、楽しむ姿を見せていこう。 など

特性は、社会的に有利なら『才能』。どちらでもなければ『個性』。不利ならば『障害』。本当にその通りの世の中だと思いましたが。多くの人が見方を少しでも変えることができれば、もっとみんなが生きやすくなるのだと感じました。

子どもも大人も生きやすくなるためには、相手への敬意をもち、『褒める、待つ、聴く』この3つを大切に過ごしていきたいです。  
そして学校だけに頼ることなく、その子自身が輝ける居場所が増えていけば嬉しいです。  
今の私にできることは、笑顔であいさつをすること! まずは居心地の良い地域にしていきたいです。  
素敵な講演会、ありがとうございました。  
(北野台在住 保護者)



# 「当たり前」の幅を広げた、デフリンピック

令和7年11月15日から26日、東京2025デフリンピック(耳が聞こえない、聞こえにくい人のためのオリンピック)は100周年大会、日本では初開催。私は6倍の倍率でボランティアに選ばれ、3日間活動しました。

選手やボランティアは国籍や障害の有無など様々です。そのため、相手に寄り添った声掛け、手話、表情、身振り、英語等でコミュニケーションを取り、つながることの安心や喜びを直に感じました。また、会場案内、軽食の配布等、スタッフ同士が連携した主体的な活動をしたこと、会場表示や審判の工夫に触れることで、自分の「当たり前」の幅を広げることができました。

世界は広く、多様な人々が暮らしています。この経験が共生社会の実現につながるよう、子どもたちへ伝えてまいります。

中山小学校 副校長  
苦米地 陽子



## 八王子の昔話を聞きました



2月14日(土)、高嶺小学校にて、子どもたちや地域の方に向けて「高尾山とんとんむかし語り部の会」のみなさんによる、八王子の昔話を聞く会が行われました。

語り部の会は、2002年に設立され、1,000話以上ある八王子の昔話や伝説を、武州語りで伝承しています。保育園や幼稚園、小学校、高齢者施設などで語りを届ける活動を続けており、本も出版しています。八王子エフエムラジオ、高尾599ミュージアム等でお話会も行っています。

八王子の昔話は、「とんとんむかし」という言葉で語り始められます。この「とんとん」には、「遠い遠い、尊い尊い」という意味が込められています。また、八王子は古くから「桑都(そうと)」と呼ばれ、絹の機織りが盛んな町でした。かつては町中に「とんとん、とんからり」と機織り機の音が響いていたといいます。そうした背景からも、「とんとん」は八王子らしい語り始めといえるでしょう。

始まりがあれば終わりもあります。語りじまいは — 「とんとんむかしは、へえしまい！」



「高尾山とんとんむかし語り部の会」  
HPはこちら→



「とんとんむかし -語ろう!八王子のむかし話-」  
出版社: 播磨社

中山地区にちなんだ昔話もあります。

- 「せきもりしょうすけ 堰守庄助(片倉)」「萩の箸(中山・片倉)」「峠のきつね(御殿峠)」「峠の山賊(野猿峠)」「ムジナの坊さま(柚木)」「厄投げ長者(北野)」「湯殿川の川天狗(天越)」など。語り継いでいきたいですね。



## 令和7年度 青少対中山地区年間活動報告

- 6/21(土) 総会(中山中)
- 7/6(日) 第1回 青少年育成環境一斉クリーン活動  
子どもの安全に関する情報交換会(高嶺小)
- 10月 広報紙「はくさん102号」発行
- 10/26(日) 地域クリーン作戦(高嶺小)、健全育成標語表彰式 ※雨天中止
- 1/24(土) 地域研修会(高嶺小) ※会場&オンライン開催
- 2/14(土) 高尾山とんとんむかし語り部の会による「とんとん昔話の会」(高嶺小)
- 3/7(土) 第2回 青少年育成環境一斉クリーン活動(中山小)[予定]
- 3月 広報紙「はくさん103号」発行[予定]
- 各学期初め あいさつ運動

~ご協力 ありがとうございます~

【編集委員】小西知子 森直美 苦米地陽子  
田口恵 片山福子 菊地美 原田雅子 古畑恵一  
佐藤寿美 北川純子 杉井諒子 朝長千佳  
櫻井直子 (まんが)中村悦子

【編集後記】今春で、人生の半分を八王子市民として過ごす。八王子の地理や歴史を、子どもと共に学ぼうと思いつつ、手前味噌ながら「はくさん」から中山地区のことをいろいろ知ることができた。第二の故郷で、皆と共に生きる喜びに浸る。(せ)

# 祝 片倉台小学校 創立50周年

片倉台小学校は、2025年12月1日に創立50周年を迎えました。今年度を周年イヤーとして、児童のデザインによる航空写真や横断幕の作製のほか、11月の学習発表会では「祝50周年 私たちの地域に元気・笑顔・感動を届けよう」というテーマを掲げるなど、記念の取り組みが行われてきました。

12月1日の開校記念日には、児童企画の「50周年児童行事」を実施。開会式では、地域の方が片倉台地区の50年の歩みを紹介し、その後は縦割り班で委員会のおし物や昔遊び体験を回り、学年を超えた交流や、地域の方とのふれあいを深めました。

また、同月3日には、「創立50周年記念式典」が開催され、5・6年生は合唱・合奏を披露しました。1~4年生はビデオメッセージで参加し、式典に彩りを添えました。最後に、参列者で八王子市ゆかりの中村雨紅作詞「夕焼け小焼け」を歌い、温かな雰囲気の中かで式典を締めくくりました。



▲50周年児童行事(開会式)



▲児童デザインの横断幕



▲50周年児童行事(出し物・昔遊び体験)

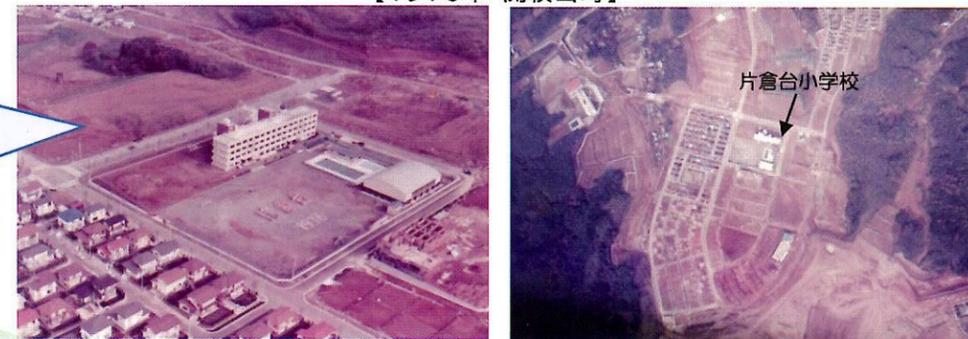


▲創立50周年記念式典(5・6年生合奏)

## 地域と共に歩んできた50年 ~片倉台小学校・片倉台地区の今昔~

片倉町東南部の片倉台団地は、1970年から造成が進められ、1973年に入居が始まりました。これに伴い、片倉台小学校は1975年12月に校舎が完成し、翌年4月に7学級・児童228名で開校しました。その後児童数は増え、1980年頃には22学級・約900名に達しました。現在は10学級、児童数235名と規模は小さくなりましたが、地域に見守られながら、子どもたちは安心して学校生活を送っています。

【1976年 開校当時】



- 住宅の建設が部分的で学校周辺はほとんど家が建てられていない状況です。
- 郵便局やシルクナード商店街はまだありません。
- 学校南側ではサンライズ幼稚園が建設中です。
- 校舎の西側部分がまだできていません。

【2025年 50周年現在】



片倉台の地名の由来  
「片」…かたむいている土地  
「倉」…多い  
「台」…小高い丘の上  
という意味があるそうです。  
(諸説あり)